

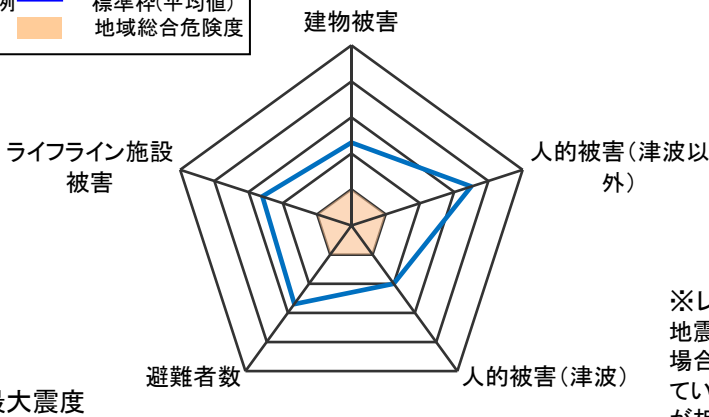
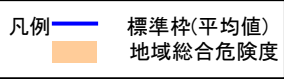
# 彩が丘小学校区防災カルテ

## 1. 想定地震(この小学校区で最も被害が発生する地震と被害想定シーン)

安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震(冬 深夜、風速11m/s)

## 2. 総合危険度

・レーダーチャート



位置図

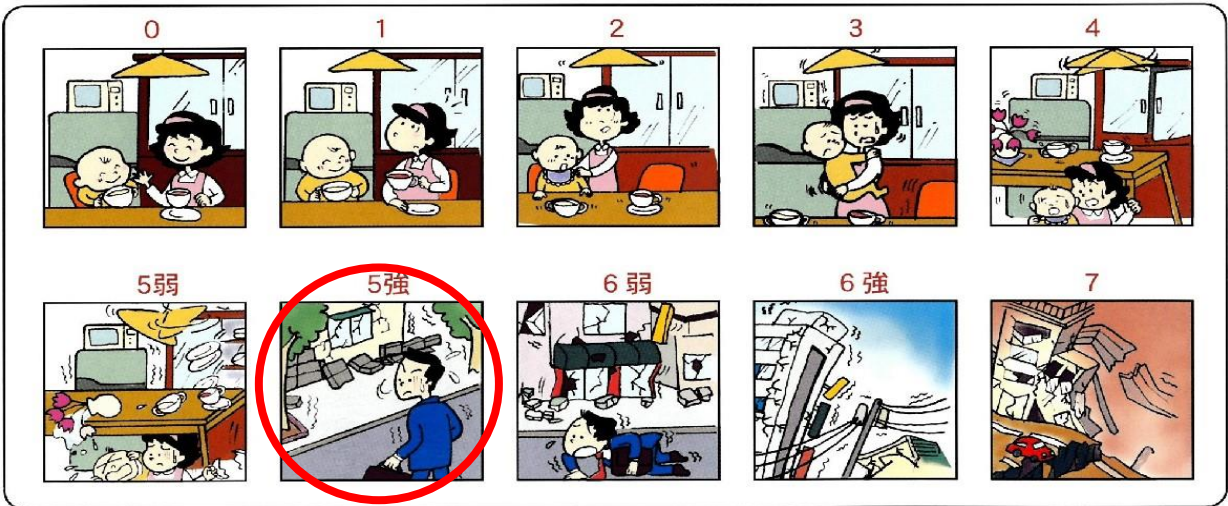
【佐伯区】

彩が丘小学校区



※レーダーチャートの見方

地震被害想定結果から、相対的に危険度がもっとも低い場合を1とし、最も危険度が高い場合を5として点数化しています。五角形の面積が大きいほど総合的な危険度が相対的に高いことを表します。



(出典: 気象庁「震度を上手につかう」)

## 3. 自然現象

| 最大震度           | 液状化危険度(最大値) |
|----------------|-------------|
| 5強             | 高い          |
| 土砂崩壊危険箇所(Aランク) |             |
| 0              | 0.0         |
| 津波浸水面積(ha)     |             |
| 0.0            | 0.0         |
| 最大浸水深(m)       |             |
| 0.0            | 0.0         |

## 4. 建物被害想定

・原因別建物被害棟数

|         | 揺れ  | 液状化 | 土砂災害 | 津波  | 火災  | 合計  |
|---------|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| 全壊棟数(棟) | 0.0 | 0.0 | 0.0  | 0.0 | —   | 0.0 |
| 半壊棟数(棟) | 0.1 | 0.0 | 0.0  | 0.0 | —   | 0.1 |
| 焼失棟数(棟) | —   | —   | —    | —   | 0.0 | 0.0 |

## 5. 人的被害想定

・原因別人的被害者数

|        | 建物倒壊 |              | 土砂災害 | 火災  | 津波  | ブロック塀倒壊 | 合計  |
|--------|------|--------------|------|-----|-----|---------|-----|
|        |      | うち、<br>屋内収容物 |      |     |     |         |     |
| 死者(人)  | 0.0  | 0.0          | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.0     | 0.0 |
| 負傷者(人) | 0.0  | 0.0          | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.0     | 0.0 |
| 重傷者(人) | 0.0  | 0.0          | 0.0  | 0.0 | 0.0 | 0.0     | 0.0 |

## 6. ライフライン被害想定(被災1日目)

|         |            |         |               |
|---------|------------|---------|---------------|
| 断水人口(人) | 下水道支障人口(人) | 停電軒数(軒) | 固定電話不通回線数(回線) |
| 0.0     | 124.0      | 1.0     | 0.0           |

## 7. 避難者数

| 避難所・1日後(人) |            | 避難所外<br>(人) |
|------------|------------|-------------|
|            | うち、災害時要配慮者 |             |
| 0.2        | 0.0        | 0.1         |

## 8. 避難場所

被災等により自宅での生活が困難になった場合は、以下の指定避難所に移動しましょう。なお、移動の際は、事前に、広島市防災情報メール等により指定避難所の開設状況を確認しましょう。

【指定避難所】 彩が丘小学校

### ■防災カルテの見方

1. 想定地震 : この小学校区で総合危険度が最大となる想定地震を知りましょう。総合危険度が同じ場合には死者数の多い想定地震を示します。
2. 総合危険度 : 標準枠(平均値)からはみ出している指標について注意しましょう。例えば、左下半分が標準枠(平均値)からはみ出している小学校区は、避難者が多く発生し、高齢者などの要配慮者に対する対策が特に必要となる傾向にあります。
3. 自然現象 : 想定地震による揺れの程度、液状化発生の程度、土砂災害発生箇所数、津波による最大浸水深の想定結果を知りましょう。
4. 建物被害想定 : 想定地震による建物への被害状況を知りましょう。
5. 人的被害想定 : 想定地震による人への被害状況を知りましょう。
6. ライフライン被害想定 : 想定地震による上水道、下水道、停電、電話不通の被害程度を知りましょう。
7. 避難者数 : 想定地震による避難者の数(家屋倒壊・焼失等により生活の場を失った被災者のほか、断水等により避難所を訪れる者を含む。)を知りましょう。